



P 36~37	新たなスタート・一般質問
P 38	一般会計予算審査特別委員会・特別会計予算審査特別委員会 補正予算審査特別委員会
P 39	第1回臨時会・各委員会報告 ほか

新たなスタート

これまで独自で発行していた、「議会だより」「でいすかす」は、今号から「広報のぼりべつ」と一体化しての発行となりました。

開かれた議会を目指すとともに議会と市民のコミュニケーションを深めるため、平成八年五月に創刊しました。

以来年四回、平成十八年二月、四十号発行まで、七名で構成される委員自ら、取材・原稿作成・レイアウトなど、「より見やすく・よりわかりやすく」を基本に今日まで努力してまいりました。

一方、議会は、議会費削減・議員定数・定例会開催回数・議会の監視・チェック機能など議会改革について検討してまいりました。

「議会だより」についても、先進地視察等から、単独発行より「広報のぼりべつ」との一体化により、経費の削減が計れることや議会と市民の関係がより近くなることなどから実施することになりました。

率直なご意見をお聞きしながらよりよい紙面づくりに邁進したいと考えておりますので、市民の皆様には旧に倍しての愛読をお願いいたします。

一般質問

平成十八年第一回定例市議会は、二月二十七日から三月二十八日まで行われ、一般質問は三月九日から四日間、市政執行方針、教育行政執行方針などについて十人の議員が質問しました。

平田江美子 議員

【問】介護保険の要介護認定者は、所得税・住民税の障害者控除の対象となるが、その申請のための「障害者控除認定書」の市民周知方法は。

【答】「要介護認定者の所得税法上の認定にかかる取り扱い要領」を定め、年齢が六十五歳以上で介護保険の要介護一から五に認定された方を対象として、この仕組みの運用をしており、この制度については現在「税のパンフレット」などで周知をしているが、今後「福祉のしおり」や「市民便利帳」へ掲載するなど、さらなる徹底を図っていきたい。

西村 孝夫 議員

【問】現代の子供たちは、欲しいものはなんでも親から与えられ、勉強をしなくても高校どころか大学にまで全員が入れるという恵まれた時代に育ち、努力をしなくてもその日を送れるという、いわば不幸な時代に生きていると言える。

鎌田 和子 議員

こうした現代の社会のひずみを一番感じている学校から、「やる気」を育む教育の必要性を家庭・地域に発信すべきではないか。

【答】現在学校では、さまざまな取り組みをしているが、今後さらに保護者、地域住民との関わりを深め取り組んでいきたい。

【問】環境問題は地球規模の課題であるが、市民が日常生活の中で確実に取り組むことが出来るのは、省エネ運動だと思っている。

【答】そのために、環境家計簿の推進を訴えてきたが、広がらないのが現状である。

次世代を担う子どもたちの環境教育を重視し、環境家計簿を学校教育の一環として捉え、小学校の夏休みの宿題として、親子一体で取り組むことで意識が深まると思うがいかがか。

【答】教育現場としては、既に環境に関しての学習は、さまざまな角度から取り組んでおり、夏休みの宿題としては難しいと考える。